

研究ノート

山岳リゾートの再考

清水 聡子

Mountain Resort Development Reconsidered

SHIMIZU Satoko

要 旨

2013年9月7日、東京2020オリンピック・パラリンピック開催が決定した。プレゼンテーションで取り上げられた「お・も・て・な・し」の一言は日本の良さを端的に表現し、大きなインパクトを与えた。東京オリンピック招致に成功し、ソチ冬季オリンピックが開催された今こそ、長野県内スキー場の現状を把握し、考察することが求められている。オリンピック開催地であった志賀高原を本稿では取り上げ、事例研究とする。

キーワード

オリンピック 志賀高原ユネスコエコパーク スキー

目 次

- I. はじめに
- II. 志賀高原の誕生とスキー場の生成
- III. 志賀高原のポテンシャル
- IV. 提言：スキー場から山岳リゾート・スノーリゾートへ
- V. 結び

【注】

【参考文献】

I. はじめに

2013（平成25）年9月7日、ブエノスアイレスで行われたIOC¹総会で東京2020オリンピック・パラリンピック開催が決定した。フリーアナウンサーの滝川クリステル招致Cool Tokyoアンバサダーがプレゼンテーションで取り上げた「お・も・て・な・し」の一言は日本の良さを端的に表現し、大きなインパクトを与えた。日本は国を挙げてオリンピック招致を行った。

オリンピックは「国」ではなくて「都市」で開催される。開催を希望する都市がIOCの定める手続きに従って立候補すると、IOCは当該オリンピック開催年の7年前のIOC総会で、IOC委員の投票を実施、開催都市を決める²。

日本国内でのオリンピック開催は1964年東京オリンピック³、1972年札幌冬季オリンピック⁴、1998年長野冬季オリンピック⁵、2020年東京オリンピックで4回目となる。

長野は戦前の1940年（志賀高原、乗鞍など⁶）と戦後の1972年（志賀高原、軽井沢など）の冬季大会に招致の名乗りを上げながら、2度とも札幌（1940年は戦争で開催を返上、中止）に敗れた経過があり、念願達成となった。長野市を中心に山ノ内町、軽井沢町、白馬村、野沢温泉村の1市2町2村にまたがる会場のために首都と結ぶ長野新幹線が着工、上信越高速道や各会場へつながる関連道路が整備され、競技施設も大金を投じて相次ぎ新設された⁷。

長野大会組織委員会（NAOC）による大会の直接運営費は当初見積り760億円が945億円に修正され、大会前年には1,080億円にまではね上がり、地元住民からも批判が高まった。政府の特別補助金のほか県や市の借金である地方債なども含めたオリンピック関連全体の公共事業費は2兆円を超えるといわれた⁸。

東京2020オリンピック招致に成功し、ソチ冬季オリンピックが開催された今こそ、長野県内スキー場の現状を把握し、考察することが求められている。オリンピック開催地であった志賀高原を本稿では取り上げ、志賀高原の誕生とスキー場の生成、志賀高原のポテンシャル、提言：スキー場から山岳リゾート・スノーリゾートへ、としてまとめ、事例研究とする。

II. 志賀高原の誕生とスキー場の生成

志賀高原のある長野県下高井郡山ノ内町⁹は長野県の北東部に位置する。下高井郡は山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の1町2村から成り立つ。山ノ内町は、上信越高原国立公園¹⁰の中心にあり、西は高社山と箱山支脈を境に中野市に隣接し、北は木島平村および下水内郡栄村に接している。また、南に笠ヶ岳、三沢山を境として上高井郡高山村に接し、東は志賀高原をはさんで群馬県と県境をなしている。

四季折々の素晴らしい自然に恵まれた志賀高原や北志賀高原と、温泉地として知られる湯量豊富な湯田中渋温泉郷を持つ町は、周りを山地に囲まれた盆地であり、山林原野が93%（うち7割余が志賀高原）を占め、集落は河岸段丘や扇状地状の緩やかな傾斜地に発達している。

1889（明治22）年の市町村制の施行とともに平穏・夜間瀬・穂波の3つの村によって構成され、その後、1954（昭和29）年4月平穏村が、平穏町となり、1955（昭和30）年4月、1町2村が合併して今日の山ノ内町となって現在に至る。

平穏村へ最初にスキーを持ち込んだのは横浜に住むドイツ人貿易商キンメル夫妻¹¹であった。夫妻は1913（大正2）年冬に上林温泉を訪れ、塵表閣本店（館主・小林民作）¹²に投宿し、持参したオーストリア式一本杖スキーで付近の畑、安造地籍、十二沢などで滑った。この地方での最初のスキーヤーとされている¹³。

また志賀高原へ最初にスキー登山をした人は湯本清比古¹⁴一行で、1919（大正8）年、志賀高原の麓・上林から発哺温泉まで登り、付近の山を滑った記録が残っている。1920（大正9）年には、「信州山ノ内スキー倶楽部」¹⁵が結成された。1922（大正11）年2月、上林桑山で第1回信越スキー大会が開催、3月には桑山・島崎地籍で第1回上信越スキー大会が開催された¹⁶。大正時代にはまだ「志賀高原」という地名もなく、湯治宿が発哺温泉に2軒、熊の湯に1軒あっただけであった¹⁷。

1927（昭和2）年4月、財団法人和合会¹⁸が設立されると志賀高原の開発が本格的に始まった。同月には長野電鉄平穏線（湯田中線）湯田中駅までの電車が開通し、9月、長野電鉄は志賀高原の開発をするために財団法人和合会に借地申請を出した。1928（昭和3）年7月には湯田中駅より渋温泉経由で、上林温泉へのバスの運行が開始され、上林ホ

テル¹⁹⁾の営業が開始された。その年、上林遊園地付近のスロープをスキー場として整備し、志賀高原スキー場開発の足掛かりとした。長野電鉄神津社長は1929(昭和4)年、地主の財団法人和合会より60万坪(200万㎡)の20年間無償貸与を受けた²⁰⁾。

1929(昭和4)年2月、ノルウェーのヘルセット(Olaf Helset)一行が来訪した。この時ヘルセット中尉は志賀高原一帯がスキー場に最適であることを認め、「東洋のサンモリッツ」と称賛した²¹⁾。

1930(昭和5)年12月、長野電鉄社長神津藤平、平穩村村長見玉峯三郎、和合会理事長佐藤喜惣治らが協議の上、統一宣伝名を「志賀高原」²²⁾と命名、本格的な志賀高原の開発に着手し、志賀高原へのバス路線の延長とスキー場開発を一体化させながら推進した。同月、神津藤平は志賀高原丸池湖畔に丸池ヒュッテを開業し、開発に尽力があった見玉治郎松にその管理を任せさせた²³⁾。

1933(昭和8)年志賀ヒュッテ(木戸池)²⁴⁾、1934(昭和9)年蜚雪荘(石の湯)²⁵⁾、麻生ヒュッテ(丸池)²⁶⁾、1935(昭和10)年神津コテージ(丸池)²⁷⁾が新設された。

同1935年12月、鉄道省国際観光局は信越県境の志賀高原、妙高、菅平を含む一帯を「上信越国際スキー場」に指定した。戦後1949(昭和24)年、厚生省は志賀高原を中心とした地域一帯を全国で15番目の上信越高原国立公園に指定した²⁸⁾。

1937(昭和12)年1月、京都ホテルは丸池に志賀高原温泉ホテル²⁹⁾を開業した。同年5月、志賀高原への自動車道路上林～丸池間が開通した。12月にはビロ池ヒュッテ(法坂)³⁰⁾が開業、1938(昭和13)年、佐藤工務店志賀アルペンローゼ(丸池)³¹⁾が開業、1940(昭和15)年、五郎兵衛茶屋(旭山下)³²⁾が開業した。1941(昭和16)年5月、丸池～熊の湯間に自動車道路が開通し、11月には志賀高原旅館組合が結成された³³⁾。

戦時体制下の1943(昭和18)年頃から、志賀高原はそれまでの観光地化、スキー場の整備に代わって、各種の資材供給や食料増産の場として利用されるようになった³⁴⁾。

戦後、進駐軍は丸池スキー場や志賀高原温泉ホテルを接収し、1946(昭和21)年11月、丸池にスキーリフトの架設を命令した。雪深い中を人力で資材が運搬され、翌1947(昭和22)年1月、日本最初のリフトが札幌藻岩山とともに完成した。この丸池スキー場やリフトの要員として猪谷六合雄一家が移住³⁵⁾し、1956(昭和31)年コルチナ・ダンペッ

ツオ冬季オリンピックで日本人初の銀メダルを受賞した猪谷千春³⁶⁾選手は学校の休みを利用して、ここで練習した³⁷⁾。

進駐軍の接収は、地元にとって必ずしもマイナス面だけでなく、スキー場整備促進など観光面について大きな利益を受けた。この調査計画が現在の志賀高原のマスタープランとなり、ツアースキーからゲレンデスキー場へと大きく転換するきっかけとなった³⁸⁾といわれている。

1952(昭和27)年10月、米軍の接収解除と同時にリフトを含むスキー場施設は長野電鉄(株)に払い下げられ、日本最初のリフト³⁹⁾を有する丸池スキー場が長野電鉄(株)によって経営され、その後の志賀高原のスキー場発展にとって大きな役割を果たすことになった⁴⁰⁾。

山ノ内町のスキー場といえば志賀高原に代表されるが、その発祥を見るとき、上林を中心に普及し、次第に奥へ奥へと開発された。その経過はツアースキーコースの拡大とともに各スキー場がつながり、スキーリフト架設とスキー場の開発、宿泊施設の拡充などによって広いスキーエリアが形成された⁴¹⁾。

Ⅲ. 志賀高原のポテンシャル⁴²⁾

志賀高原のポテンシャル(潜在能力)を考えるにあたり、まず志賀高原の“日本初”を取り上げてみよう。

1928(昭和3)年、サンモリッツ冬季オリンピック(スイス)で竹節作太選手(毎日・平穩村出身)は日本初出場の6名⁴³⁾の代表選手の内の1人であった。

進駐軍によって札幌藻岩山と志賀高原丸池にスキーリフトが建設され、1947(昭和22)年完成した。日本初のリフトである。

1956(昭和31)年、コルチナ・ダンペツオ冬季オリンピック(イタリア)で日本人初の銀メダルを受賞した猪谷千春選手は学校の休みを利用して、丸池のリフトを使って練習した。また同オリンピックに出場した杉山進⁴⁴⁾選手はサンクリストフ国立スキー学校に学び、1964年、日本人として戦後初めてオーストリア国家検定スキー教師の資格を取得した⁴⁵⁾。

1980(昭和55)年、志賀高原はユネスコエコパーク(Biosphere Reserves)に日本で初めて登録⁴⁶⁾された。ユネスコエコパークは生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的として、1976年にユネスコが開始した。志賀高原は1960年代以降にスキー場を中心とした急速な開発が進め

られてきた。その一方で、核心地域はほとんど人為の影響がなく、原始的な森林が大面積で保たれており、緩衝地帯にも、有限な亜高山性針葉樹林に美しい湖沼や高層湿原が点在している。志賀高原ユネスコエコパークは、これら豊かな自然を活用したエコツーリズムに加え、環境教育にも活用されている⁴⁷⁾。

次に志賀高原のスノーリゾートとしてのポテンシャルを考えていこう。

1913(大正2)年、ドイツ人貿易商キンメル夫妻が上林温泉に宿泊、近くの斜面でスキーをした歴史的な土地であること。

1929(昭和4)年、ノルウェーのオラフ・ヘルセット(Olaf Helset)は、志賀高原一帯を「東洋のサンモリッツ」と称賛し、スキー場に最適であることを認めたこと。

1960(昭和35)年3月6日に公開された映画『白銀城の対決』のロケ地となったこと。また1987(昭和62)年11月21日に公開された映画『私をスキーに連れてって』のロケ地となったこと。

1998(平成10)年、志賀高原は長野冬季オリンピックでアルペンスキー回転、大回転コース、スノーボード大回転コース、長野冬季パラリンピックでアルペンスキー滑降、回転、スーパー大回転、大回転コース、かんばやしスキー&スノーボードパーク(上林温泉)において長野冬季オリンピックスノーボードハーフパイプコースとなったこと。

2003(平成15)年、アルペンスキーワールドカップ志賀高原大会が開催されたこと。2名が同タイムで優勝⁴⁸⁾し、優勝者の一人、オーストリアのライナー・シェーンフェルダー(Rainer Schönfelder)選手は、「今日のコースは勝ったから言うわけじゃないけど、今シーズンのレースじゃウエンゲン、キッツビューエルの次くらい、いや今年のキッツはあんまりコース条件よくなかったから、2番目にいいコースだったかな!日本はすごいよね。なんでも完璧にやっちゃうんだから」⁴⁹⁾と絶賛した。

志賀高原の力強さは志賀高原の持つ自然の魅力と志賀高原が育んだ人の魅力によって形成されている。長野での冬季オリンピックの開催によって、長野が「Nagano」として世界に発信されたことは非常に大きな意味がある。志賀高原はオリンピックという最大で最高の国際舞台を経験し、さらに本格的な山岳リゾートを目指す上でも、オリンピックは語り継ぐべき重要で中核となるコンテンツであることは間違いない。志賀高原のスノーリゾートとし

てのポテンシャルを考えたとき、雪質の高さとともに冬季オリンピックの舞台となったことをもっと大切に扱うべきではないかと思われる。

IV. 提言：スキー場から山岳リゾート・スノーリゾートへ

現在スキー場を抱える地域は非常に厳しい状況にあると言われている。しかし、若者皆スキーであったバブル期が特殊な状態であったと考えるべきであろう。特別な営業努力をしなくても若者が時間をかけて雪山に通い、リフトやゴンドラに乗るために寒空の下1時間近く待っていたのだ。そうした大勢の若者を受け入れた地域では、ゴンドラやリフトといった装置、ホテルやペンション、旅館、ゲレンデの食堂といった箱ものの中で、その多くが手際よく人を捌くことに全精力を注いできたのではないか。

バブルがはじけても1998年に長野冬季オリンピックが開催されたため、バブルとオリンピックの残像がまだ頭の中にある。ゲストは降って湧いてくる状況であったが、通常に戻ったのだ。ウィンタースポーツ、スノースポーツの好きな人がスキーやスノーボードを楽しむというスポーツ本来のスタイルになったと考え、手際よく人を捌くのではなく、ゲスト一人ひとりと向き合い、ゲストの満足度を高めることが求められている。過去の残像に縛られて、その残像を追いかけはいけない⁵⁰⁾。

スキー場から山岳リゾート・スノーリゾートへ、大きな転換点が訪れている。

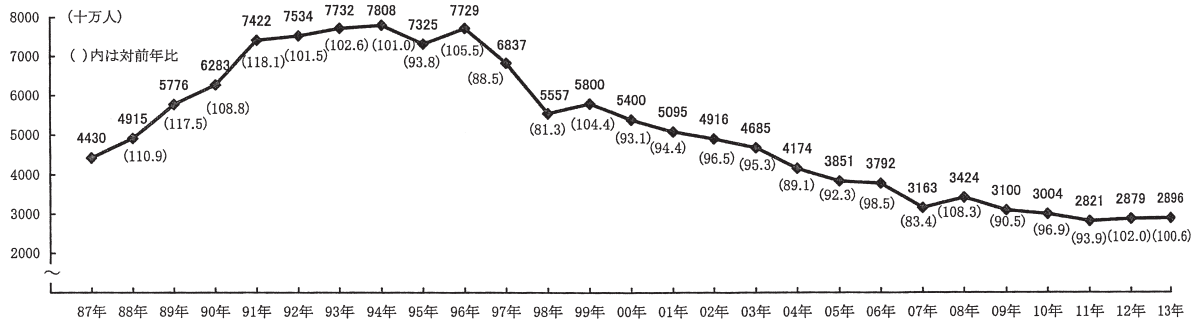
1. コースの厳選

2007(平成19)年12月15日、おんたけスキー場(おんたけ 2240)のゴンドラリフトが運行中にケーブルが索輪からはずれ(脱索)、緊急停止した。このことにより運行中の44基のゴンドラのうち17基の乗客90名が取り残され、復旧作業を行うも運行再開はできず、ゴンドラからの懸架により乗客を救助した。停止から救助終了まで12時間を要した⁵¹⁾。

索道の安全はスノーリゾートとしてのスキー場にとって前提条件であり、上記のような事故を防ぐためにも安全管理は徹底して行わなければならない。図表1 シーズン別特殊索道輸送実績(旅客数)の推移を示す。

志賀高原は日本で最初にリフトが架設された歴史あるスキー場であり、その発祥を見るとき、上林を中心に普及し、次第に奥へ奥へと開発された。需要の拡大にあわせてリフトやゴンドラを架設して

図表1 シーズン別 特殊索道輸送実績(旅客数)の推移



出所: 特定非営利活動法人ウインターレジャーリーグ編集発行(2013)『ウインターレジャー白書2013』, p.5

きた経緯がある。

リフト、ゴンドラの老朽化による事故を防ぐためにも、コースの厳選を行うべきではないだろうか。コースによってはリフト、ゴンドラの運行を取りやめる。必要なところには最新のリフト、ゴンドラに架け替えるといった取り組みが求められる。

太陽光パネルの電力で動くロープトウ(Sonnenlift)が設置されたオーストリアのシーヴェルト(SkiWelt)⁵²⁾やスイスのティーナ(Tenna)⁵³⁾、再生可能エネルギー(水力、風力、太陽光発電)で稼働するリフトが設置されたフランスのレキャローズ(Les Carroz)⁵⁴⁾などの事例を参考に、志賀高原ユネスコエコパークにふさわしいリフトやゴンドラを考えていく必要がある。

ゲレンデスキーからバックカントリーやツアースキーといった原点回帰の動きもある。山そのものを楽しみ、誰も滑っていない大自然のパウダーを滑る醍醐味を味わいたいという欲求が高まっている。志賀高原ではスキーツアーコースとして、横手山・渋峠越え草津万座コース、笠岳越え・山田牧場コース、竜王越えコースが設定されている。

横手山・渋峠越え草津・万座コース

A: 横手山リフト～横手山頂～渋峠経由～(約3時間)～草津温泉

B: 横手山リフト～横手山頂～渋峠経由～(約2時間)～万座温泉

笠岳越え・山田牧場コース

熊の湯第2リフト経由～(約2時間30分)～山田牧場

竜王越えコース

奥志賀→(リフト)→焼額山→(約3時間下り)～竜王

ここで1930(昭和5)年当時のスキーツアーコースと比較してみよう。

1930(昭和5)年当時のスキーツアーコース⁵⁵⁾

渋峠越コース(上林温泉～丸池～熊の湯～渋峠～芳ヶ平～草津温泉)

笠岳縦走コース(上林温泉～丸池～熊の湯～笠獄～山田温泉～須坂)

志賀山大沼池周遊コース(上林温泉～丸池～熊の湯～志賀山～大沼池～丸池～大沼池～志賀山～熊の湯)

発哺・高社山麓コース(上林温泉～丸池～発哺～焼額山～高社山麓～木島または夜間瀬)

別名竜王越えコース

発哺・野沢温泉コース(発哺～焼額山～カヤノ平～大次郎山～毛無山～野沢温泉)

岩菅登山コース(発哺～寺子屋～岩菅山)

万座コース(熊の湯～渋峠～山田峠～万座)

スキー場にリフトが存在していなかったため、スキーツアーコースは現在よりも多く設定されており、現在のコースは1930年当時のコースを踏襲している。先人が築いてきた歴史を再考するべき時期にきている。

2. スノーリング形成の提案

山に降り積もる雪山を、山頂より山麓に向けて重力のままに滑る、ただそれだけのスノースポーツがなぜこれほど人々を魅了するのか。

スキーブームによるスキー場の開発が一つの“村おこし”としてさまざまな地域で行われてきた。スキーブームが収まり、身の丈を超えたスキー場の存在は、多くの地域において“村おこし”どころか、その地域の存続をも危ぶむ存在となってしまう。

日本のスキー場の多くが「オラの町、村にもスキー場」と、各地域に個々のスキー場がバラバラに形成されて、現在に至っている。一つの山を切り開いてコースが作られるか、あるいはコースが放射状に広がりを持って大型化する場合などいずれにしても、山頂から山麓へ滑り降りるコースでスキー場全体が構成されることが多い。

一日滑り終わって駐車場や駅から帰る。もしくは数日宿泊して週末が終わると帰宅する。そんな楽しみ方が、日本における今までのスキー場の楽しみ方であった。それでもスキーは贅沢なスポーツ、お金がかかる、そんな話をよく耳にする。

ところが近年、スキーに対する楽しみ方が変わってきたのではないだろうか。山々をスキーとストック（ポール）を使って滑るだけの楽しみ方から、スノーボード、ショートスキー、テレマーク、ファットスキー、スノーシューやスノーチューブ等雪山を楽しむ多くのマテリアル・ギアが開発され、多種多様の楽しみ方が提案されるようになった。

それに応じて雪山でもっと長時間、できれば長期で楽しみたいという人々が出現してきている。特に日本のスキー場に長期滞在し、楽しむ海外のプレイヤーの存在は大きい。

一般的な日本のスキー場は、一日滑ればほぼ全部のコースを滑り終えてしまう。何かほかに特別なもの、もしくは理由がない限り、リピーターにつなげていくことは難しい。長期滞在の間、楽しみ続けることができ、遊びつくせないもの、もしくはもう一度来たいと思わせるような仕組みづくりが必要であろう。

海外では長期の休暇を楽しむ人が多い。多くの

海外スノーリゾートは、宿泊しているホテルから近隣の複数のスキー場にアクセス可能である。長期間の滞在でも飽きることがない。麓にはプール等のスキー以外のアクティビティも数多く存在する。

海外のスキー場において、特に標高の高い所に位置するスキー場は、山全体を全方位滑ることができるところが多い。いくつもの山々に多くのコースが設定され、ゴンドラ、リフトなどを乗り継ぎながら長距離を滑ることができる。時には麓に滑り下りずに途中で宿泊しながら滑り続けることもできる。図表2 スノーリゾート内におけるスキー場間のイメージを示す。

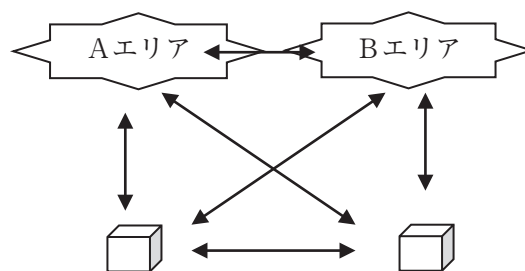
長野県内において、スキー場が近接しながらもそれぞれが独立して営業している地域は多い。白馬三山に連なるスキー場群、白樺湖を中心とするスキー場群、北信州に存在するスキー場群等は、スキー客の落ち込みの中でそれぞれが疲弊し、厳しい状況が続いているのではないだろうか。

スキーブームやオリンピックといった爆発的な需要の後で、急激に需要が減少した状況が続く現在、個々のスキー場だけでできることにも限界があるのではなからうか。白馬五竜⁵⁶⁾ & Hakuba47ウィンタースポーツパークが連携したように近接のスキー場同士が協力・連携することも必要であろう。

例外的に志賀高原は、複数のスキー場が一体として形成されている。そのため多様なニーズに対応可能で、他のスキー場とは異なって見える。オリンピックの聖地として、またユネスコエコパークとして豊かな自然を活かして、多様なニーズに対応し、魅力度を上げることが求められる。その一方で、一部コースの閉鎖も検討しながら適正なサイズへ移行していくことも重要であろう。

近年バックカントリースキー、スノーボードを楽しむ人々が増えてきている。自分の足で山を登り、誰もいない斜面を滑り降りる爽快感に、夢中になる人が増える理由もわからなくない。しかし、バックカン

図表2 スノーリゾート内におけるスキー場間のイメージ



出所:筆者作成

トリーは雪崩にあう危険性を伴うため、知識と経験が必要である。

志賀高原全体は、丘陵地で雪崩が起きにくいスキー場でもあるが、今後一部コースの閉鎖に伴い、新雪滑走等に対応することも必要になってくると思われる。欧州で需要が高まっているエアバッグ方式の安全対策は有効であり、全国に先駆けて導入するのはいかがであろうか。

また志賀高原は、野沢温泉と近接しており、春先にはツアースキーが行われている。志賀高原を中心として北信州のスキー場群が一体となりスノーリングが形成されれば、新たな需要を呼び起こし、安全に長距離を滑りながら、多くのスキー場を巡ることができるようになる。スノーリンクであれば、滑り降りると必ず麓の駐車場、もしくは宿泊街へ戻ることになるので、スノーリンクを志賀高原が提示できれば面白いであろう。

オーストリアのアールベルグ (ARLBERG) では Lech~Stubenbach~Zürs~Zug~Oberlech~Lechと滑って巡る、ホワイトリング (Der Weibe Ring) が存在する。それによって、特徴のある複数のスキー場を長時間滑ることができる。リフトに

乗って同じコースを繰り返し滑り続けるのではなく、スノーリンクの設定は、志賀高原の広大なエリアだからこそ可能であり、志賀高原のポテンシャルをさらに高めることになるであろう。

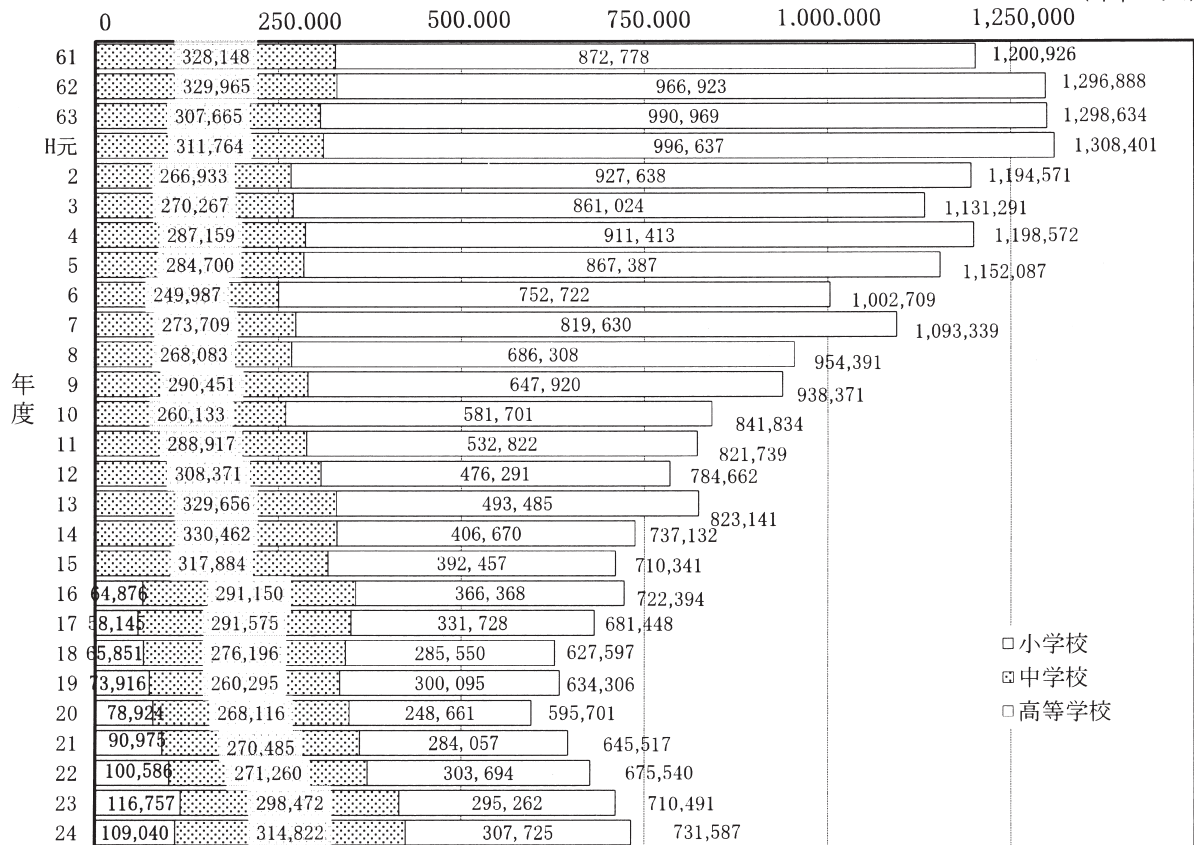
3. 修学旅行依存体質から脱却

志賀高原は、冬だけではなく夏にも修学旅行・学習旅行を有効に取り込み、急激な落ち込みを防いでいる。しかし、超高齢社会の日本、人口減少による児童・生徒数の激減が予想され、修学旅行・学習旅行に依存したホテル・旅館経営は非常に厳しい状況になると考えられる。

ここで、長野県観光部観光企画課『平成24年度学習旅行実態調査結果』⁵⁷⁾を示す。図表3 年度別延児童・生徒数の推移では、2004 (平成16) 年より小学校が長野県内で学習旅行に取り組むケースが登場し、明るい兆しであったが、2012 (平成24) 年にはすでに頭打ちとなり、前年度より減少した。高等学校の延生徒数のピークは1989 (平成元) 年の996,637人、底は2008 (平成20) 年の248,661人、2012 (平成24) 年は前年より微増の307,725人であるが、ピーク時の3分の1以下である。

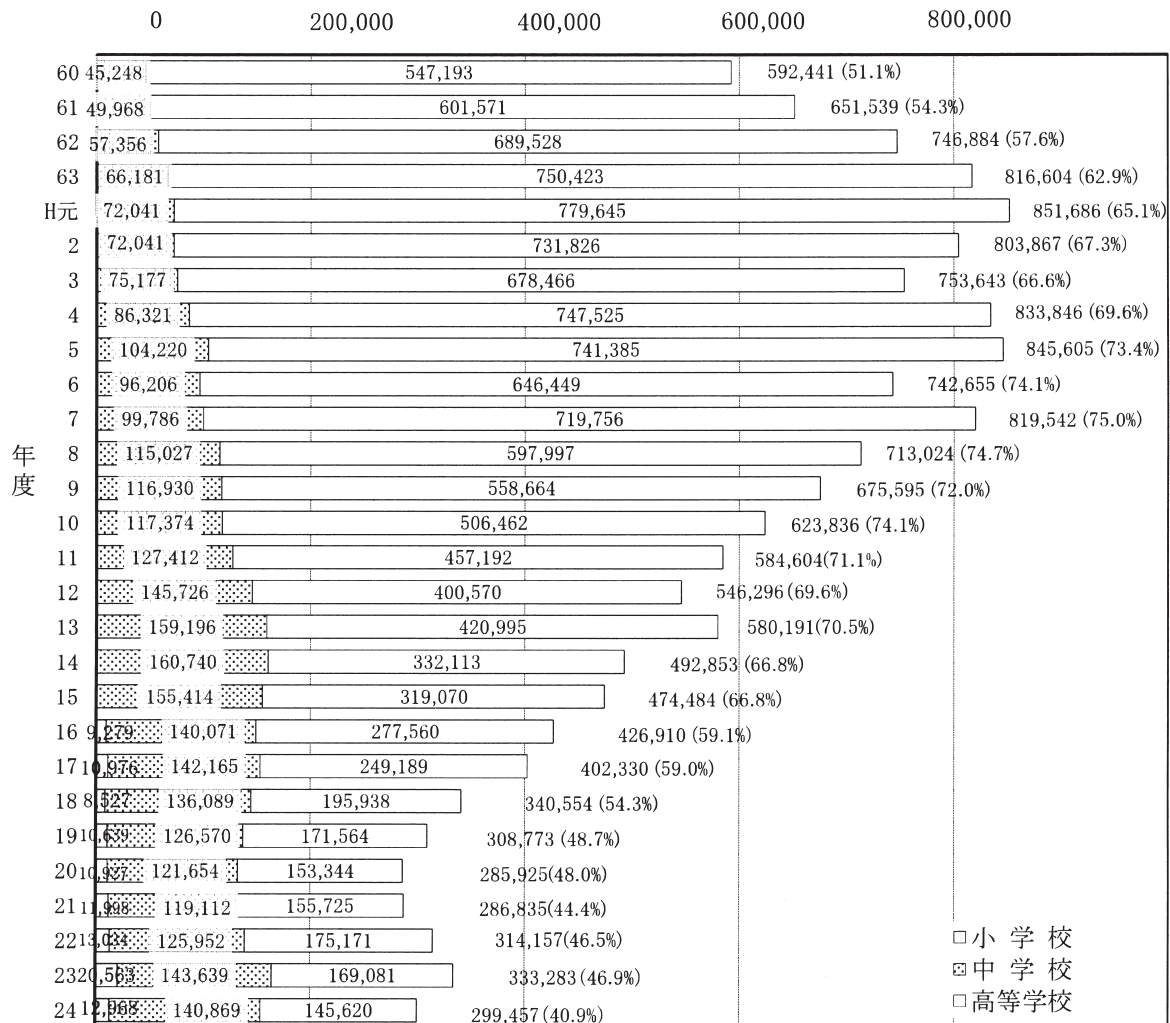
図表3 年度別延児童・生徒数の推移

(単位:人)



出所:長野県観光部観光企画課(2013)『平成24年度学習旅行実態調査結果』,p.1

図表4 年度別延児童・生徒数の推移(スキー学習旅行) (単位:人)



(注) ()は学習旅行全体に占めるスキー学習旅行の比率を示す

出所:長野県観光部観光企画課(2013)『平成24年度学習旅行実態調査結果』,p.5

宿泊地別延児童・生徒数の状況では、志賀高原・北志賀高原は小学校で2位、中学校、高等学校で1位、合計で1位である。大量の児童・生徒を受け入れ、効率性を重視すると児童・生徒たちの行動が管理され、包丁を使わず、はさみを使った料理になりかねない。

児童・生徒たちが自宅に戻り、志賀高原で体験した修学旅行・学習旅行は非常に楽しかったので、また家族で行きたい、友達で行きたいと思えるようなプログラム、志賀高原ユネスコエコパーク独自の自然環境の中で学習しながら楽しめるプログラム、信州のおいしい食事の提供が求められている。

特にスキー学習旅行が大幅に減少する中で、スキー・スノーボードの技術を教えるだけでなく、スノースポーツの楽しさや志賀高原ユネスコエコパーク特有の自然の美しさを伝えることができるインストラクターの育成が重要であろう。

4. マーケティング志向と安全対策

志賀高原では、通年に対応する試みが始まっている。立地を活かした高地トレーニング用のコースや施設づくり、山岳ガイドと連携したトレッキングツアーなどは、これからの通年化する山岳リゾートとしての向かうべき1つの姿であろう。

2つ目としては、志賀高原の成り立ちの特異性にある。志賀高原を“村持山”とする和合会によって限定的に開発されたことで、商業的な乱開発が行われてこなかった半面、和合会員に制限された開発は、いつの間にか、顧客のニーズを置き去りにした部分もあるように感じる。かつての顧客満足からほど遠い、どこでもいから寝る場所とおなが一杯になればそれでいいという食事のイメージの払拭をする必要がある。最盛期のように、待っていればスキー客が来て、スキー場からスキー客があふれる時代ではない。スノースポーツが多様化する中、

志賀高原の真の実力が試される時期になっていると思われる。

石の湯において、ホテルを守り育てる活動が始まっているが、志賀高原の良さを再考し、本物の山岳リゾート・スノーリゾートへの変革がスタートしている。これからは多様なニーズに対応しながらも、スキー場の一部コースの閉鎖なども検討し、適正なサイズへ移行することが求められよう。

日本でも近年バックカントリースキー、スノーボードを楽しむ人々が増えてきている。『スキー教程安全編』⁵⁸⁾では、雪崩に埋まった遭難者の捜索に使用する「雪崩ビーコン」と、埋没している遭難者を発見する「プローブ(ゾンデ棒)」、それに遭難者を掘り起こすときに使用するシャベルを必携の装備として「バックカントリーの3種の神器」と呼んでいる。

しかし、欧州で広まりつつあるエアバッグ方式の安全装備ほど有効な手段ではないと、筆者は考え

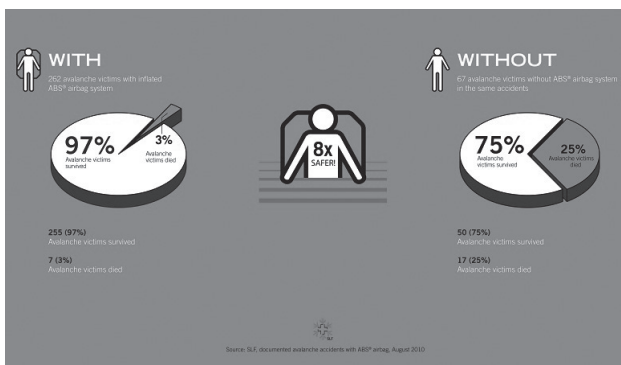
る。二重遭難の可能性が残る場所において、ビーコンで大まかな位置が特定できるにしても、そこへ駆けつけ遭難者を掘り出すリスク、掘り出すまでの時間を考えた時、エアバッグ方式の安全装備で遭難者自身が浮力で雪崩表層もしくは上部に浮き上がることで救出までのリスクを極限まで下げることができる。

雪崩埋没後15分経過を境に生存率が下がるということを前提として考えると、ビーコンサーチに5分しかかからなかったとして埋没深度が70cmを超えると、掘り起こしに10分以上かかり15分を超えてしまう。

雪崩ビーコンの生存確率が50%なのに対して、ABS装着者の生存確率は90%以上と飛躍的に生還できる可能性が高まると言われている。

オランダのウィレム・アレクサンダー (Willem-Alexander) 国王の弟で、2012年2月17日にオースト

図表5 ABSシステム



出所: <https://www.abs-airbag.com/en/abs-system.html> (2014.1.14)

リアでのスキー中に雪崩に巻き込まれて脳を損傷し、18か月間にわたり正常な意識のない状態が続いていたヨハン・フリーゾ (Johan Friso) 王子(44)が、2013年8月12日に死去した⁵⁹⁾。

フリーゾ王子は雪崩にあったオーストリア西部の山岳リゾート地レッチ (Lech) からインスブルック (Innsbruck) の病院に搬送された。事故当時、フリーゾ王子はゲレンデ外の圧雪されていない区域を滑走していて雪崩にあった。レッチ地区観光局のピア・ヘルブスト (Pia Herbst) 広報担当は、王子はスキー用のヘルメットを着用し、雪崩ビーコンを持っていたため救助隊が素早く位置を探索することができたと語った。同伴者も雪崩用エアバッグを装備していたため、雪崩にのまれず救助隊に連絡を取ることができた。だが、レッチのルドウィッグ・ミュクセル (Ludwig Muxel) 市長は国営オーストリア放送会社 (ORF) に対し、王子は救助されるまでに約20分かかっており、蘇生処置が必要だったことを明らかにした⁶⁰⁾。

この事故からもわかるように雪崩用エアバッグを装備していた同伴者は雪崩にのまれず、一命をとりとめ、雪崩ビーコンを持っていたフリーゾ王子は雪崩にのまれ、一命を落としたという決定的な差が生まれた。事故後、オーストリアアールベルグではゲレンデ外を滑走する際には、雪崩用エアバッグを装着することが一気に広まった。

ドイツのABS社⁶¹⁾において、エアバッグ式安全装備の生存率は97%と驚くべき生還率を示す。これからの雪山に対する安全を担保する方法は、エアバッグ式の安全装備であろう。

近年、海外のいくつかの製品が輸入されはじめではいるが、価格的に高価な点と使用ポンペへの再充填のバックアップを行うショップ等の課題が残る。安価で日本の雪山にあった製品の販売が待たれる。

5. 宿泊施設への法的規制

＜耐震改修促進法による＞

建築建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部を改正する法律が、2013 (平成25) 年、11月25日に施行された⁶²⁾。

この法律の施行を受けて、多くの観光地・温泉地に立ち並ぶ宿泊施設に衝撃と波紋が広がっている。建築建築物の耐震改修の促進に関する法律⁶³⁾ (以降、耐震改修促進法) は、現行の新耐震基準⁶⁴⁾ 以前の旧耐震基準により設計された建築物の耐震

改修を促進し、地震による建築物の倒壊等の被害から国民の生命、身体及び財産を保護するため、建築物の耐震改修の促進のための措置を講ずることにより建築物の地震に対する安全性の向上を図り、もって公共の福祉の確保に資することを目的して1995 (平成7) 年12月25日に法律が施行され、2006 (平成18) 年1月26日に一部改正⁶⁵⁾ を受けて、今回は2回目の改正法の施行となる⁶⁶⁾。

なぜ今回は、これほどまでに波紋が広がっているのか。今回の改正ポイント⁶⁷⁾ の1つに不特定多数の者が利用する建築物 (特定建築物) のうち大規模なものを要緊急安全確認大規模建築物 (店舗・ホテル・旅館等の建物については、階数3階以上かつ5,000㎡以上)⁶⁸⁾ に指定し、耐震診断を2年後の2015 (平成27) 年末までとの期日を切った報告の義務化に加えて、耐震診断の結果を公表することが明記され規制の強化が図られたからである。

スキー産業の急激な落ち込みは、建物に対する維持管理・建物改修への余裕を失わせている。スキーブームの時代に建築されたリゾートホテル等も本来であれば、適正な規模へ減築・需要の変化に即した改修がなされるべきであるが、利用されないまま解体できずに放置され、立ち枯れ状態となった建物が増加している現状がある。

熱海や草津といった古くからある観光地・温泉地ほど、今回の改正に対する戸惑いや不安は大きい。

ホテル・旅館は、昔ながらの地の利を生かした観光地・温泉地に立ち並ぶ。「伝統と趣のある佇まい」に癒しを求めに来る常連客が絶えない老舗の旅館も多い。

長野県は温泉地数・宿泊施設数共に日本で2番目に多く点在する県⁶⁹⁾ であり、温泉街を持つ野沢温泉スキー場をはじめ、渋・湯田中温泉を麓にもつ志賀高原、梅池・白馬乗鞍のスキー場をもつ小谷村など長野県には、温泉を持つ地域とスキー場が密接に結びつくところが多く、古くからのホテル・旅館も少なくはない。

耐震改修は、多額の費用負担を伴い経営的な重荷となるばかりか、筋交等の補強部材が昔ながらの雰囲気・佇まいをも壊しかねない。当然、筋交等が出ない耐震工法も検討の余地はあるが、費用の面でさらなる負担となる。

ホテル・旅館としては、お客様の安全の確保は第一にすべき事項であり、耐震化せざるを得ないのであろう。まして、耐震的に問題があると公表され

れば、存在すら危ぶまれる状態になるので、耐震化は必然的に進むこととなる。

しかし歴史ある部分を残しながら存続することの困難に不安を感じながらも、残すことの重要性も地域全体で考えていく時期ではないだろうか。耐震改修促進法は、数年おきに確実に規制が強化改正されてきている。数年後にはさらに小規模のホテル・旅館が対象となってくる可能性は大きい。

ロッジや民宿の規模とは違いホテル・旅館は部屋数も多く、耐震工事が必要となった場合には多額の費用の面で負担が発生することとなる。当然、耐震工事に対する公的な補助金をあてにしたいところではある。国は税財政面の優遇措置で診断や改修工事を後押ししているが、地方行政にゆとりのある地域は少なく、財政余力などに応じて自治体の対応に濃淡が生じている。負担増を警戒する地方の旅館業などから、公的支援の拡充を求める声も出ていて耐震化がどの程度進むか不透明な面もある。

さらに耐震診断自体も建物の規模に比例して高額となる。多数の者が利用する建築物の耐震化率を2003(平成15)年の75%から2015(平成27)年までに少なくとも9割とする国の基本方針により、今回の改正が施行され多くの波紋を投げかけることとなった。

安全を第一に考えた時、建物に対する耐震性の確保は当然にして求められることであろう。近年、阪神・淡路大震災、東日本大震災と日本列島を襲う大地震の多発を考えると耐震化対策は優先すべき事項である。

しかし、日本全国どこの観光地・温泉地に行っても同じような近代化された建物が立ち並ぶ「金太郎飴」のような街並みに、観光客が魅力を感じるであろうか。多額の費用を要する、耐震診断・耐震改修を好機と捉え、単に国の政策に振り回されることのないように迅速かつ有効なまちづくり・地域づくりのあり方を事業者と地域、行政が一体となって考える時期にあるのではなかろうか。山岳リゾート・スノーリゾートにおいても、特色ある地域・観光地づくりが不可欠と思われる。

V. 結び

オリンピックの聖地である志賀高原ユネスコエコパークを本稿では取り上げ、志賀高原の誕生とスキー場の生成、志賀高原のポテンシャル、提言：ス

キー場から山岳リゾート・スノーリゾートへ、では1. コースの厳選、2. スノーリンク形成の提案、3. 修学旅行依存体質から脱却、4. マーケティング志向と安全対策、5. 宿泊施設への法的規制、としてまとめた。

杉山スキー&スノースポーツスクールの杉山進⁷⁰⁾代表は、「スキーはまづ愉しくそして美しく さいごに力強く」と語る。スノースポーツとしてのスキーの奥深さを表す言葉である。

熊の湯ホテル佐藤勝俊⁷¹⁾代表取締役は、「悪雪のパンチョ」の異名を持ち、デモンストレーターとして活躍した。誰も躊躇して滑り降りることのできなかった悪雪コースを、基本に忠実な滑りを徹底することで滑り降りた。

渋峠ホテル児玉幹夫⁷²⁾代表取締役は長野県スキー連盟会長、志賀高原スキークラブ会長を歴任し、ワールドカップ、長野オリンピック開催に尽力した。大会運営のノウハウを引き継いでいくためにも、大会誘致は必須であると訴える。また丸池ホテル児玉英二⁷³⁾代表取締役はアルペン競技の1つであるキロメートルランセで活躍した。

志賀高原に関係する多くの人々がウィンタースポーツであるスキーに情熱を傾け、志賀高原発展のために尽力してきた。志賀高原では特別なこととは思われていないが、スキー雑誌の表紙を飾った人が何人もいる。

現在のスキー場の現状は非常に厳しい。誰もが前へ進むことに不安を持ち、躊躇する状況であるが、志賀高原の誕生とスキー場の生成で見たように、先人が築き上げてきた歴史に思いを馳せながら、志賀高原のポテンシャルを活かしたこれからの志賀高原の在り方を再考する時ではないだろうか。そのためにも志賀高原に関連する記念館の再調査、再整備が必要であろう。

粉雪、温泉、独自の自然、景観、志賀高原ユネスコエコパークでしか味わえないものを大切に、山岳スポーツ、ウィンタースポーツの楽しさを伝える。来場するゲストの満足度を高め、リピーターを獲得するためにはスキー場から山岳リゾート・ウィンター・リゾートへの転換が求められる。

オリンピックの聖地として、国際大会にも対応できるコース、自然と共存した新しい索道システム、良質な食事と宿泊施設、高速鉄道と連携した輸送システムなど、オリンピックの経験を活かし、スノーリゾートとして積極的な改革こそが新たな志賀高原ユネスコエコパークの魅力を構築することに繋

がっていくであろう。

ある日突然、立ち行かなくなる日が来ることのないよう、10年先、20年先を見据えた取り組みも求められる。そのためにも積極的な改革が求められる。和合会、各宿泊事業者、観光協会、索道会社が一体となった改革、他のスキー場との連携や柔軟な対応が望まれる。日本初を生み出してきた志賀高原ユネスコエコパークから、バックカントリー、ツアースキー、高地トレーニング、自然体験、自然共存など、発信力ある取り組みが求められる。志賀高原ユネスコエコパークの前進は長野県の山岳リゾート・スノーリゾートの前進につながり、日本の山岳リゾート・スノーリゾートの前進に結びつくはずである。

【謝辞】

本稿の執筆にあたっては、
 一般財団法人和合会 山本今朝治理事長
 公益財団法人日本オリンピック委員会 古川年正理事
 杉山スキー&スノースポーツスクール 杉山進代表
 熊の湯ホテル 佐藤勝俊代表取締役
 渋峠ホテル 児玉幹夫代表取締役
 丸池ホテル 児玉英二代表取締役
 大橋茶寮 大橋宗乃(児玉キノエ) 守貧庵
 上林温泉塵表閣本店 小林美知子女将
 白馬五竜スキー場 駒谷嘉宏代表取締役社長
 株式会社野沢温泉 河野博明代表取締役社長
 日本スポーツ文化研究所 福岡孝純所長

には、多大なご協力を頂きました。心から深く御礼申し上げます。

ただし、本稿における誤りは、すべて筆者に帰することは言うまでもありません。

【注】

- 1) 国際オリンピック委員会(International Olympic Committee)はIOCと略される。
- 2) 日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編(2008)『ポケット版オリンピック事典』楽,p.55
- 3) 東京は、1940年に行われる予定であった第12回オリンピック大会の開催都市に一度は決定されながら、中国との戦争のために返上していた。日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編(2008)『前掲書』,p.134
- 4) 冬季オリンピックの第11回札幌大会は1972年2月3日から11日間にわたって行われた。この大会は戦前の1940年、夏季東京大会とともに実施されることに決まっていたが、日中戦争の深刻化で返上せざるを得なくなり、戦後、あらためて立候補、1966年のIOC総会で1972年の開催地に選ばれた。日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編(2008)『前掲書』,p.137
- 5) 第18回冬季オリンピック大会(1998)は長野で開催された。この大会には国内で長野のほか旭川、盛岡、山形の4都市が立候補して競合、JOCの投票で長野は本命の盛岡を下して日本の立候補都市になった。海外ではソルトレークシティ(米)、ステルスンド(スウェーデン)、ハカ(スペイン)、アオスタ(イタリア)の4都市が立候補。1991年英国バーミンガムでのIOC総会で5回の投票が繰り返され、最後に長野がソルトレークシティを46対42と4票差で破り開催地に選ばれた。日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編(2008)『前掲書』,p.141
- 6) 1935(昭和10)年10月、冬季オリンピック開催候補地に県内より霧ヶ峰、菅平、乗鞍、志賀高原の4か所が立候補、11月札幌、日光他が立候補した。志賀高原旅館組合発行(1997)『志賀高原旅館組合誌』,p.50
- 7) 日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編(2008)『前掲書』,p.141
- 8) 日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編(2008)『前掲書』,p.141
 長野冬季オリンピックの問題点を指摘した書籍として、相川俊英(1998)『長野オリンピック騒動記』草思社、江沢正雄、ダグ・レオナルゼン、谷口源太郎、ピーター・バーグ、矢崎利和、徳武正司、中村葉子、内山卓郎、今井寿一郎、野池元基、寺井篤樹、千葉明日香、渡辺隆一、清川博明、友田三津夫(1998)『長野五輪 歓喜の決算 肥大化五輪への批判と提言』川辺書林、江沢正雄(1999)『オリンピックは金まみれ 長野五輪の裏側』雲母書房などがある。
- 9) 長野県山ノ内町公式ウェブサイトと山ノ内町役場総務課編集(2013)『山ノ内町勢要覧』【平成25年版】を筆者がまとめる。<http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/aramashi.html> (2014.1.14)
http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/asset/00032/site_shared/home/choseiyoran.pdf (2014.1.14)
- 10) 上信越高原国立公園は、群馬、新潟、長野の三県にまたがり、面積としては大阪府ほどの、日本で2番目の広さを持つ国立公園である。本公園の特徴、白根山や浅間山のような活火山、志賀高原のような高層湿原など豊かな自然的要素に加え、神社を有する戸隠高原など歴史的要素のほか、スキー場、キャンプ場、温泉など野外レクリエーション的要素を有している。

- 環境省自然観光局国立公園HP <http://www.env.go.jp/park/joshinetsu/> (2014.1.14)
- ¹¹⁾ 『山武ハネウエル七十五年史』によると、P.キュンメルは、横浜にあるドイツ商館合名会社ファーマー・フォークト商会の支配人であり、シュッカルト・シュッテ社(Schuchardt & Schütte、本社ベルリン市)の販売代理店であったが、1909(明治42)年倒産。キュンメルは業務引継ぎと販路維持のためニーロップ商会の機械部長として勤務。シュッカルト・シュッテ社の極東地区支配人J.G.ブラウンは山武商会に日本総代理権を付与する条件として、キュンメルを(山口)武彦の経営パートナーとして山武商会に入社させ、報酬は兩人とも同額とすること、機械をドイツから送り委託在庫品として売却することという2点を示した。キュンメルは明治43年、山武商会に入社。その後日本に帰化して金原良次と名乗る。大正10年から14年まで日本精工(株)の取締役を兼務する。13年4月山武商会を退社、15年1月アメリカを経てドイツに帰国したと記述されている。一方『日本精工五十年史』ではパウル・キュンメル(Paul Kümmler)ドイツ人。第一次大戦中日本に帰化し金原良次と改名、大正10年12月から14年12月まで当社取締役に就任と記述されている。『釘からオートメーション』では、のちの武彦のパートナーとして、影の形に随うごとく接することになる、ドイツ人ピーター・キュンメル(P. Kunmmel)と記述されている。1994(平成6)年4月29日に建立された志賀高原スキー発祥記念碑(上林)には「大正2年(1913)ドイツのキュンメル夫妻(ポールド ハナリー)によりはじめて上林地籍にオーストリア式一本杖スキーが伝授されました」とある。以上のようにキュンメル夫妻に関する記述はさまざまである。塵表閣本店に投宿した際に記入したであろう宿泊者名簿の出現が待たれる。山武ハネウエル75年史編集委員会(1982)『山武ハネウエル七十五年史』山武ハネウエル株式会社発行、pp.13-16 日本精工株式会社編集発行(1967)『日本精工五十年史』、p.31 長沼皎平(1964)『釘からオートメーション』産業研究所、p.72 山ノ内町・山ノ内町スキー発祥100周年記念事業実行委員会編集・発行(2012)『山ノ内町スキー発祥100周年記念史 今伝えたいこと』、pp.78-79
- ¹²⁾ 明治34年、初代小林民作により、長野上林温泉を開湯し、小林館として開業。翌年訪れた末松謙澄の命名により「塵表閣」と改名、以来、夏目漱石、与謝野晶子、林芙美子、川端康成などが宿泊し、現在に至る。筆者が塵表閣本店小林美知子女将から伺う。塵表閣HP <http://www.jinpyo.jp/> (2014.1.14)
- ¹³⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『志賀高原旅館組合誌』、p.39
- ¹⁴⁾ 中野市赤岩出身で理学博士の湯本清比古は、飯山中学スキー部創設者のひとりであった。志賀高原スキークラブ発行(1991)『志賀高原スキー史』、p.32
- ¹⁵⁾ 小林茂、吉田滋、山口賢吉らの青年たちから発案されたスキークラブ結成の動きが、当時、冬の閑散期対策を考えていた上林温泉塵表閣・小林民作の理解と熱意によって大きく前進し、信州山ノ内スキー倶楽部が結成された。信州山ノ内スキー倶楽部はその後、信州平穏温泉スキークラブ、志賀高原スキークラブへと受け継がれ、現在に至っている。志賀高原スキークラブ発行(1991)『前掲書』、pp.30-31
- ¹⁶⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』、p.41
- ¹⁷⁾ 1841(天保12)年発祥温泉天狗の湯(初代・関新作)が開業、明治初年頃発祥温泉薬師の湯(関夏藤太)夏期のみ営業、1881(明治14)年薬師の湯開業、明治初期熊の湯(山本タケヨ)湯治場、1882(明治15)年頃、山小舎(山本八曾吉)、1909(明治42)年熊の湯旅館(山本順次郎)が開業した。1930(昭和5)年佐藤菊治が譲り受け温泉旅館の経営に着手、翌1931(昭和6)年より越冬を開始してスキー客を扱う。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』、pp.36-38、p.295、p.298 志賀高原スキークラブ発行(1991)『前掲書』、pp.32-33 安原一郎・佐藤勝俊(1988)『熊の湯賛歌』熊の湯ホテル発行、p.3 熊の湯HP <http://www.kumanoyu.co.jp/hotel/spa.html> (2014.1.14)
- ¹⁸⁾ 財団法人和合会はその前身が徳川時代には松代藩領の杓野村であり、明治時代以降には杓野部落・杓野区などと称されていた。財団設立当時の正式名称は「下高井郡平穏村和合会」であり、1957年以降においては「下高井郡山ノ内町和合会」である。和合会は、基本財産として志賀高原の土地を所有しているが、財団法人でありながら特定された会員を権利者としている。岩菅山は財団法人共益会との共有地である。財団法人下高井郡山ノ内町和合会編集・発行(2011)『財団法人和合会の入会の歴史』pp.3-5を筆者がまとめる。
- ¹⁹⁾ 塚田嘉太郎(長野市)が旅館仙壽閣を経営していたが、長野電鉄(株)は1927(昭和2)年9月、仙壽閣を買収し、翌年8月、仙壽閣上林ホテルを開業した。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』、p.45 上林ホテル仙壽閣HP <http://www.senjokaku.com/> (2014.1.14)
- ²⁰⁾ 志賀高原スキークラブ発行(1991)『前掲書』、p.33
- ²¹⁾ ヘルセット一行は1929(昭和4)年2月5日、仙壽閣に一泊、翌6日午後から行われる模範ジャンプの前に、上林から途中安造、十二沢、波坂を登り坊平、杓打茶屋で休憩、旭山を登降し、上林まで滑走した。志賀高原スキークラブ発行(1991)『前掲書』、p.33 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』、p.48
- ²²⁾ 横手山(2,305m)と岩菅山(2,295m)の間にある志賀山(2,035m)は高原の中心にあり、また神津藤平の出生地が当時の北佐久郡東村志賀(現在の佐久市)であったことなどから名付けられたと言われる。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』、pp.44-50を筆者がまとめる。
- ²³⁾ 丸池ヒュッテは戦時中丸池旅館、戦後丸池ヒュッテ、丸池ホテルと名称変更、現在に至る。児玉治郎松爺さんが丸池に移り住んだ時、人々から口々に「山の中に住むなんて馬鹿か、気狂い…」などといわれたそうでもさかこれ程までに志賀高原が発達するとは、治郎松爺さんも驚いているであろうと故児玉佐内は当時のことを回想している。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』、p.49、p.291 丸池ホテルHP <http://www.shigakogen.jp/maruike/> (2014.1.14)
- ²⁴⁾ 小林信義は木戸池湖畔に山小屋・志賀ヒュッテを開業、内湯・志賀旅館、木戸池温泉ホテルと名称変更、現在に至る。木戸池温泉ホテルHP <http://www.kidoike.com/img/pamphlet.pdf> (2014.1.14)
- ²⁵⁾ 児玉恒一郎が沼尻に螢雪荘(石の湯山荘の前身)を開く。1959(昭和34)年石の湯ロッジに名称変更。現在に至る。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』、p.53、p.294 石の湯ロッジHP <http://ishinoyu.com/> (2014.1.14)
- ²⁶⁾ 長野電鉄(株)は麻生ヒュッテを建設し、麻生武治に寄

- 贈した。その後、1948(昭和23)年渋ホテル山荘、志賀ロイヤルホテルとなった。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.50,p.291
志賀ロイヤルホテルHP <http://www.shiga-royal.jp/> (2014.1.14)
- ²⁷⁾ 長野電鉄(株)は神津コテージを新設。1948(昭和23)年猪谷六合雄はこれを借り、改造して住んだ。1988(昭和63)年猪谷記念館として猪谷一家の歴史を伝える資料が展示されていたが、閉鎖された。建築・都市ワークショップ+石黒知子編集(2001)『猪谷六合雄スタイル』INAX出版,pp.70-71志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.50,p.291を参照。
- ²⁸⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.54,p.71
- ²⁹⁾ 政府による外貨獲得特別措置法が制定され、大蔵省預金局と鉄道省国際観光局との間で志賀高原に国際観光ホテル建設の構想が持ち上がり、建設することに決まった。平穏村村長が長野県知事に国際スキー場指定申請を出し、(財)和合会が長野県に現土地を提供するなどの困難な過程もあったが、1935(昭和10)年11月、長野県知事と京都ホテルとの間でようやくホテル建設契約が交わされた。終戦直後1945(昭和20)年にはアメリカ進駐軍に接収され、1960(昭和35)年、京都ホテルより営業権を委譲され、志賀高原ホテルとなった。現在の志賀高原歴史記念館である。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.56,p.291
上信越高原国立公園志賀高原リゾートエリアHP <http://www.shigakogen.co.jp/highlight/history> (2014.1.14)
- ³⁰⁾ 徳武正作は法坂(現サンバレー)にビワ池ヒュッテを開業。ビワ池ホテルに名称変更、現在に至る。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.56,p.290
ビワ池ホテルHP <http://www.shigakogen.jp/biwaik/> (2014.1.14)
- ³¹⁾ 佐藤秀三は昭和期の建築家であり、佐藤秀工務店志賀アルペンローゼを開業した。2003年、山ノ内町の有形文化財に指定された。佐藤秀HP 建築家佐藤秀の世界 <http://www.satohide.co.jp/hidezo/> (2014.1.14)
- ³²⁾ 山本五郎治は旭山下(炭焼横手・追分)に五郎兵衛茶屋を開業。五郎兵衛旅館として蓮池に移り、ホテル五郎兵衛と名称を変更、現在に至る。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.58,p.99,p.292
ホテル五郎兵衛HP <http://www.shigakogen.jp/gorobei/> (2014.1.14)
- ³³⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,pp.57-59
- ³⁴⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.61
- ³⁵⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.65
- ³⁶⁾ 1952年オスロ冬季五輪で回転11位、1956年コルチナ・ダンベツツオ五輪で回転2位であった。1982年～2011年IOC委員を務め、現在はIOC名誉委員、東京都スキー連盟会長である。猪谷千春(2013)『IOCオリンピックを動かす巨大組織』新潮社
- ³⁷⁾ 「私にとっては、ここでオリンピックへの足がかりを築いたともいえる。それくらい、リフトの効果は絶大だった。」と記述している。猪谷千春(1994)『わが人生のシュプール』ベースボール・マガジン社 p.73
- ³⁸⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.68
- ³⁹⁾ 1973(昭和48)年2月、志賀高原スキー場とアメリカ・アイダホ州のサンバレースキー場とが姉妹提携をした際、サンバレーには世界最古のスキーリフトがあり、志賀高原には日本最初のリフトがあるという共通点
- が提携の要因のひとつとなったが、2007(平成19)年11月末に提携を解消した。志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.68 清水聡子(2013)『人口減少に向き合う地域』『松本大学研究紀要』第11号,p.109
- ⁴⁰⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.68
- ⁴¹⁾ 志賀高原スキークラブ発行(1991)『前掲書』,p.18を参照。
- ⁴²⁾ 筆者と津田達一級建築士は2013年8月21日、志賀高原の将来を考える会(和合会館)で「志賀高原の魅力」について講演を行った。
- ⁴³⁾ 公益財団法人日本オリンピック委員会HP http://www.joc.or.jp/games/olympic/sanka/olympic_w1.html (2014.1.14)
- ⁴⁴⁾ 1965年、志賀高原丸池に杉山進スキースクールを開校。1969年、奥志賀高原スキー場にスキースクールを開校。1996～2009年、日本職業スキー教師協会(SIA)会長を歴任。杉山スキー&スノースポーツスクール代表である。杉山スキー&スノースポーツスクールHP <http://sugiyama-ski.com/delegate> (2014.1.14)
- ⁴⁵⁾ 杉山進(1965)『オーストリアスキー』冬樹社を参照。
- ⁴⁶⁾ 同1980年に登録された日本のユネスコエコパークは、志賀高原(長野県、群馬県)のほか、白山(石川県、岐阜県、富山県、福井県)、大台ヶ原・大峰山(奈良県、三重県)、屋久島(鹿児島県)であった。2012年には綾(宮崎県)が登録された。その核心地域や緩衝地域は、国立・国定公園や国有林の保護林として保全されている。
- ⁴⁷⁾ 志賀高原観光協会「志賀高原ユネスコエコパーク」パンフレットおよびHP <http://www.shigakogen.gr.jp/season/index.html> (2014.1.14)
- ⁴⁸⁾ カレ・パランダー(Kalle Palander)選手、ライナー・シェーンフェルダー(Rainer Schönfelder)選手が同タイムで優勝、佐々木明選手は6位であった。
- ⁴⁹⁾ 田和夫(2003)「ベニーも、ライナーも、キアンも…」『スキージャーナル』2003.09月号、および、偕ふ会発起人一同(2011)『田和夫遺稿集山眠るころまた君に会いたい』pp.108-109を参照。
- ⁵⁰⁾ 清水聡子(2013)『人口減少に向き合う地域』『松本大学研究紀要』第11号,pp.110-111
- ⁵¹⁾ 大滝村HP <http://www.vill.otaki.nagano.jp/data/open/cnt/3/2173/1/071215dassakujiko.pdf> (2014.1.14)
- ⁵²⁾ <http://www.skiwelt.at/en/a-signal-for-the-future-the-new-sonnenlift-in-brixen-is-powered-by-a-photovoltaic-system.html> (2014.1.14)
- ⁵³⁾ <http://www.skilift-tenna.ch/> (2014.1.14)
- ⁵⁴⁾ <http://www.lescarroz.com/> (2014.1.14)
- ⁵⁵⁾ 志賀高原旅館組合発行(1997)『前掲書』,p.50
- ⁵⁶⁾ 生き残りをかけてできることを考え抜きながら、マーケティングの徹底、スキー場内のレベルアップに取り組む白馬五竜スキー場は注目に値する。筆者が白馬五竜スキー場駒谷嘉宏代表取締役社長より伺う。
- ⁵⁷⁾ 長野県観光部観光企画課(2013)『平成24年度学習旅行実態調査結果』平成25年11月発行
- ⁵⁸⁾ 財団法人全日本スキー連盟(2010)『スキー教程安全編』スキージャーナル,p.112
- ⁵⁹⁾ <http://www.afpbb.com/articles/-/2961641> (2014.1.14)
- ⁶⁰⁾ <http://www.afpbb.com/articles/-/2859026>

- (2014.1.14)
- ⁶¹⁾ <https://www.abs-airbag.com/en/abs-system.html> (2014.1.14)
- ⁶²⁾ 建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部を改正する法律の改正
<http://www.mlit.go.jp/common/001014317.pdf> (2014.1.14)
- ⁶³⁾ 建築物の耐震改修の促進に関する法律
<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H07/H07HO123.html> (2014.1.14)
- ⁶⁴⁾ 新耐震基準:現行の新耐震基準は昭和56年6月1日に導入
http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_fr_000043.html (2014.1.14)
概要:<http://www.mlit.go.jp/common/000188539.pdf> (2014.1.14)
- ⁶⁵⁾ 2006年建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部を改正する法律の改正
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha06/07/070125_4/01.pdf (2014.1.14)
- ⁶⁶⁾ 建築物の耐震改修の促進に関する法律の一部を改正する法律の改正経緯
「建築物の耐震改修の促進に関する法律(耐震改修促進法)」に基づき、国の基本方針において、住宅や多数の者が利用する建築物の耐震化率を平成15年の75%から27年までに少なくとも9割とする目標を定めるとともに、政府の「新成長戦略」及び「住生活基本計画」においては、住宅の耐震化率を32年までに95%とする新たな目標を定め、建築物に対する指導等の強化や計画的な耐震化の促進を図っている。平成20年時点の耐震化率は、住宅が約79%、多数の者が利用する建築物が約80%となっている。
http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_fr_000043.html (2014.1.14)
特定建築物:学校、病院、百貨店等の多数の者が利用する一定規模以上の建築物の耐震化率
<http://www.mlit.go.jp/common/000188416.pdf> (2014.1.14) 立法参考資料
http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2013pdf/20130412029.pdf (2014.1.14)
- ⁶⁷⁾ 2013年建築物の耐震改修の促進に関する法律の概要 <http://www.mlit.go.jp/common/001018218.pdf> (2014.1.14)
- ⁶⁸⁾ 要緊急安全確認大規模建築物 <http://www.taishin-shien.jp/kenchiku.html> (2014.1.14)
- ⁶⁹⁾ 環境省HP平成23年度温泉利用状況(都道府県別) http://www.env.go.jp/doc/toukei/data/2013_3.20.xls (2014.1.14)
- ⁷⁰⁾ 筆者が杉山スキー&スノースポーツスクール杉山進代表より伺う。
- ⁷¹⁾ 筆者が熊の湯ホテル佐藤勝俊代表取締役より伺う。
- ⁷²⁾ 筆者が渋峠ホテル児玉幹夫代表取締役より伺う。
- ⁷³⁾ 筆者が丸池ホテル児玉英二代表取締役より伺う。
- オタッククリエイティブ
- B. Tremper (2001) *STAYING ALIVE IN AVALANCHE TERRAIN*, The Mountaineers Books / 特定非営利活動法人日本雪崩ネットワーク 訳(2004)『雪崩リスクマネジメント』山と溪谷社
- C. H. Lovelock & C.B. Weinberg (1989) *PUBLIC & NONPROFIT MARKETING, 2nd*, Scientific Press / 渡辺好章・梅沢昌太郎監訳(1991)『公共・非営利のマーケティング』白桃書房
- J. Parry & V. Girginov (2005) *THE OLYMPIC GAMES EXPLAINED*, Routledge / 舛本直文訳(2008)『オリンピックのすべて』大修館書店
- J. Trout & S. Rivkin (2000) *DIFFERENTIATE OR DIE, 2/E*, John Wiley & Sons International Rights, Inc. / 吉田利子訳(2011)『独自性の発見』海と月社
- P. Kotler, J. R. Bowen, J. C. Makens (2003) *Marketing for Hospitality and Tourism, 3rd*, Pearson Education Inc. / 白井義男監修(2003)『コトラーのホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン桐原
- P. Kotler & N. Lee (2007) *MARKETING IN THE PUBLIC SECTOR A Roadmap for Improved Performance*, Pearson Education Inc. / スカイライト コンサルティング訳(2007)『社会が変わるマーケティング 民間企業の知恵を公共サービスに活かす』英治出版
- Schweizerischen Interverband für Skilauf(1985) *LEHRBUCH SKI SCHWEIZ* / スイス・スキー・インター連盟編 福岡孝純訳(1986)『スイスのスキーの技術』ベースボール・マガジン社
- 相川俊英(1998)『長野オリンピック騒動記』草思社
- 猪谷六合雄(1943)『雪に生きる』羽田書店
- 猪谷千春(1994)『わが人生のシュプール』ベースボール・マガジン社
- 猪谷千春(2013)『IOCオリンピックを動かす巨大組織』新潮社
- 石坂友司(2011)「オリンピックがもたらした地域の変容と遺産」『現代スポーツ評論』第25号, pp.41-51
- 白田明(2013)『日本のスキー・スケート』信毎書籍出版センター
- 江沢正雄、ダグ・レオナルゼン、谷口源太郎、ピーター・バーク、矢崎利和、徳武正司、中村葉子、内山卓郎、今井寿一郎、野池元基、寺井篤樹、千葉明日香、渡辺隆一、清川博明、友田三津夫(1998)『長野五輪 歓喜の決算 肥大化五輪への批判と提言』川辺書林
- 江沢正雄(1999)『オリンピックは金まみれ 長野五輪の裏側』雲母書房
- 河村英和(2013)『観光大国スイスの誕生』平凡社
- 北信州スノースポーツ活性化協議会企画・製作『スキーが変えた冬のくらし未来へつなぐ「スキー100年」～スノーリゾートへのあゆみ～』平成23年度長野県「地域発元気づくり支援金」を活用して制作
- 木下是雄(1973)『スキーの科学』中公新書
- 呉羽正昭(2009)「スキー場の立地とその変遷」神田孝治編著『レジャーの空間-諸相とアプローチ』ナカニシヤ出版, pp.38-47
- 呉羽正昭(2013)「日本における閉鎖・休業スキー場の地域的性格とスキーリゾートの展望」日本スキー学会第23回大会 プログラム・研究発表抄録集, p.40
- 建築・都市ワークショップ+石黒知子編集(2001)『猪谷

【参考文献】

- A. Ferrand, Jean-Loup Chappelet & B. Séguin (2012) *Olympic marketing*, Routledge / 原田宗彦監訳(2013)『オリンピックマーケティング』スタジ

- 六合雄スタイル』INAX出版
- 財団法人下高井郡山ノ内町和合会編集・発行(1975)『和合会の歴史 上巻』
- 財団法人下高井郡山ノ内町和合会編集・発行(1975)『和合会の歴史 下巻』
- 財団法人下高井郡山ノ内町和合会編集・発行(2002)『財団法人和合会の手引き』
- 財団法人下高井郡山ノ内町和合会編集・発行(2011)『財団法人和合会の入会の歴史』
- 財団法人全日本スキー連盟(2010)『日本スキー教程安全編』スキージャーナル
- 財団法人長野経済研究所(2009)『危機を生き抜く企業力 オンリーワン企業に学ぶ15の知恵』
- 信濃毎日新聞社
- 坂部護郎(1976)『はるかなるシュプール/スキーと共に60年』スキージャーナル
- 志賀高原観光開発株式会社発行(1978)『20年のあゆみ』
- 志賀高原スキークラブ発行(1991)『志賀高原スキー史』
- 実業之日本社編集・著作(2010)『大人のスキー』2011 winter
- 清水聡子(2013)『人口減少に向き合う地域』『松本大学研究紀要』第11号,pp.101-115
- 清水聡子(2013)『地域振興と人材育成』『地域総合研究』第14号,pp.33-55
- 『週刊東洋経済』「ゲレンデに客を呼び戻した白馬五竜スキー場の挑戦」2008年3月22日号,pp.80-82
- 『週刊東洋経済』「スキー伝来100年目の苦悩 淘汰の嵐はこれからだ 全国のスキー場は半分には?」2010年5月15日号,pp.78-79
- 白坂蕃(1986)『スキーと山地集落』明玄書房
- 菅沼達太郎(1933)『スキー・ツアー』大村書店
- 杉山進(1965)『オーストリアスキー』冬樹社
- 杉山進(1975)『スキーレッスン』講談社
- 関信夫(2001)『志賀高原の地名と伝承』北信ローカル出版センター
- 専修大学社会体育研究所(2009)公開シンポジウム(2008年11月12日)「オリンピックがもたらすレガシー」『専修大学社会体育研究所所報』56号(別冊)
- 専修大学社会体育研究所(2010)公開シンポジウム(2009年12月16日)「スポーツの価値とは何か」『専修大学社会体育研究所所報』57号(別冊)
- 鉄道省(1924)『スキーとスケート』鉄道省
- 常盤文克・片平秀貴・古川一郎編(2010)『いま・ここ経営論』東洋経済新報社
- 特定非営利活動法人ウインターレジャーリーグ編集発行(2012)『ウインターレジャー白書2012』
- 特定非営利活動法人ウインターレジャーリーグ編集発行(2013)『ウインターレジャー白書2013』
- 中浦皓至(2001)「日本スキーの発祥前史についての文献的研究」『北海道大学大学院教育学研究科紀要84』,pp.85-106
- 長沼皎平(1964)『釘からオートメーション』産業研究所
- 長野県観光部観光企画課(2013)『平成24年度学習旅行実態調査結果』平成25年11月発行
- 長野県スキー連盟編(1978)『長野県スキー史』信濃毎日新聞社
- 長野県総務部地方課(1965)『長野県市町村合併誌』市町村編下巻
- 長野県地方自治研究センター発行(2012)『長野県における「平成の合併」-合併・非合併の記録と検証-報告書』
- 中山建生(2009)『雪山の基本』柘出版社
- 新潟地方索道協会編集(1976)『索道20年のあゆみ』新潟地方索道協会
- 『日経グローバル』「決断迫られる公営スキー場」2010年12月6日号, No.161,pp.10-21
- 日本オリンピック・アカデミー「ポケット版オリンピック事典」編集委員会編(2008)『ポケット版オリンピック事典』楽
- 日本スキー博物館発行(1997)『日本スキー博物館20周年記念誌』
- 日本精工株式会社編集発行(1967)『日本精工五十年史』
- 野沢温泉スキー誌編集委員会(1976)『野沢温泉スキー誌』長野県下高井郡野沢温泉村
- 野地秩嘉(2013)『TOKYOオリンピック物語』小学館文庫
- 博報堂地ブランドプロジェクト編(2006)『地ブランド』弘文堂
- 福岡孝純(2003)「21世紀のスキーと指導者像を求めて」『法政大学体育・スポーツ研究センター紀要』第21号,pp.39-41
- 藤木忠善(2012)『理想のスキーリゾートを求めて-海外スキー場研究-』スキージャーナル
- 古川一郎編(2011)『地域活性化のマーケティング』有斐閣
- 文屋編集・発行(2001)『かたりあう近未来ベーシックノート志賀高原』
- 『北信ローカル』(1997.1.31特集 保存版)
- 松瀬学(2013)『なぜ東京五輪招致は成功したのか?』扶桑社
- 三浦敬三(2003)『百歳、山スキーと山岳写真に生きる』草思社
- 水越康介・藤田健編(2013)『新しい公共・非営利のマーケティング』碩学舎・中央経済社
- 三ツ谷洋子(2010)「オリンピックとまちづくり:2012年ロンドンオリンピックを例に」『法政大学スポーツ健康学研究』pp.57-63 <http://hdl.handle.net/10114/6395> 2014-1-14
- 安原一郎・佐藤勝俊(1988)『熊の湯賛歌』熊の湯ホテル発行
- ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書⑤(2006)『バックカントリースキー&スノーボード』山と溪谷社
- 山武ハネウエル75年史編集委員会(1982)『山武ハネウエル七十五年史』山武ハネウエル株式会社発行
- 山ノ内の「社会につくした人々」編集発行委員会(1990)『山ノ内の「社会につくした人々」』信毎書籍印刷
- 山ノ内町役場総務課編集(2013)『山ノ内町勢要覧』【平成25年版】
- 山ノ内町・山ノ内町スキー発祥100周年記念事業実行委員会編集・発刊(2012)『山ノ内町スキー発祥100周年記念史 今 伝えたいこと』
- 渡辺保(2004)『現代スポーツ産業論』同友館
- オーストリア政府観光局HP
- オーストリアチロル州観光局HP
- 国際オリンピック委員会(International Olympic Committee)HP
- 長野県HP、飯山市HP、大滝村HP、野沢温泉村HP、山ノ内町HP
- 環境省自然観光局国立公園HP
- 公益財団法人日本オリンピック委員会HP
- 志賀高原観光協会HP
- 志賀高原索道協会HP

上信越高原国立公園志賀高原リゾートエリアHP
信州の旅.com HP
野沢温泉スキー場HP